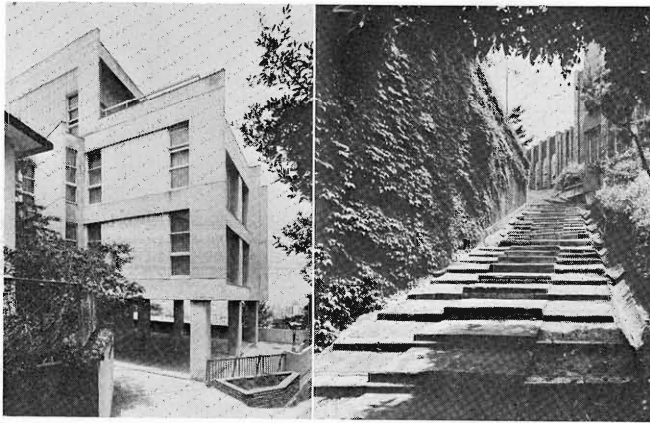




Fグループ会報

第4号 昭50.6



母校について

フェリス女学院
短期大学学長 佐藤馨

たまたま子供の頃などに、いくばくかの年月を過した町に立寄ったりすることがあると、日頃は、その喝きをほとんど自覚しないでいたようなものを、にわかに意識することがあります。啄木はそのような自分を充足してくれるものについて、ふるさとの山はありがたきかな、とうたっています。実は、石をもて追われるように村を後にしたのであり、東北の小さな村のことよりも、社会や文学に対する功名心に動かされていた青年の、このコンプレックスを想わずに、彼の仕事をみるわけにはいきません。

母校と卒業生の間も、おそらくそのような見えない糸でつながれているのであって、それは人によって、精神的な痕跡をどのように母校にとどめているかの違いはあるわけですが、どの人にとっても母校はありがたきかな、というものでありたいものだと考えています。

なにかのときに母校を訪れた卒業生にとって、昔教わった恩師がいまなお元氣よく教授しておられることは、訪れた甲斐があることでしょうか、学校としては古くから教授されている先生方を大切にしなければならぬと思っています。また新しく入られた先生方にはいつまでも居てくださるよう配慮しなければならぬ、とも思います。さらに、いろいろな御都合でお辞めになった先生方とは、もつとつながりをもつような方法を考えたり、その機会をつくらねばならないでしょう。

かつての白面の美青年が、上品な老紳士となって卒業生を驚かす、というようなことも、教師にとってはひとつの夢ですから、音楽科同窓会の皆さんや幹事の方にこのような考えに同意してくださるよう、この際お願いしておきましょう。

ごあいさつ

音楽科科长 倉長 治子

今年もまた目に沁みる程に山手の新緑は美しくなりました。

この山手の静かなたたずまいも年と共に移りかわる様に深い感傷を覚えるこのごろです。

新しい年度がはじまり、山手の通りはフェリスの学生たちの往来で賑やかになりました。学生たちの様々な服装も世の中の移りかわりを敏感に表わしていて興味を覚えます。

音楽科は、今年度、発足以来の大きな変化がありました。それは三宅短大学長の定年退職・佐藤音楽科長の学長就任・そしてはからずも、私に「科長」と云う重大な責任を負うめぐりあわせになったことです。

三宅先生即ち音楽科、音楽科即ち三宅先生と言う様な家族的な音楽科の歴史の流れの中で苦しみも、喜びも共にして来たものにとっては誠に感無量です。

この間長い年月を多くの学生を送り、新しい学生を迎えて夢中ですが、定年制のあることは頭では分っていました。それが冷徹に現実の問題となった時、ハッとせざるを得ませんでした。けれども三宅先生は客員教授として残られることになり、今は週三日出校され、前にも

まして熱心に助言を下され、又学生の指導にあたっておられることは大きな幸せです。

佐藤学長は立場を変えられて、短大の将来のため、又特に音楽科の将来のために、先生の優れた識見と実行力を以ておつくし下さることを思います。

皆様と御一緒に新しい進展をのぞみ、又それを期待いたしましょう。

三宅先生が若い日に、情熱をかたむけ、高い理想を以てはじめられたフェリスの教育方針を大切に、その理想を更に発展、充実する様努力することが私に課せられた責任だと思えます。

現在の社会は日々、急速に変化しています。いままでの内容の充実をはかると共に、その推移を見守り乍らそれに対応する努力を払わなければなりません。

学生、教授陣三百名をこす大世帯になった音楽科は、今、相互間のコミュニケーションを大切に、創立以来の少数教育の精神を貫き、社会が必要とする学生を送り出すために、カリキュラムの面でも、学校教育活動の面でも考慮が加えられました。地におちた一粒の種がやがて育ち、年毎に美しい新緑で人をたのしませ、更に大きな枝をほる様に、フェリスにつながる一人一人が与えられた種を大切に育てて行ってほしいと願っています。

何卒音楽科を覚えて下さって発展のために皆様の祈りをおねがい致します。

昭和五十年年度短期大学
校務分担

学 長	教授	佐藤 馨
宗 教 主 任	教授	奥山正夫
図 書 主 任	教授	吉田陽太郎
一 般 教 育 主 任	教授	倉長治子
科 長	教授	田中 順
学 生 部 長	教授	菊池 一郎
教 務 部 長	教授	
事 務 室 主 任	教授	

音楽科専門

教 授	倉長治子	声乐・合唱
”	佐藤 馨	音楽学
”	田中 順	音楽教育演習
”	久保 浩	ソルフエーじ
専任講師	三宅洋一郎	ピアノ、アンサンブルⅢ
客員教授	三宅春恵	ピアノ
教 授	中田喜直	音楽表現法
”	唐津東流	作曲
”	江口元子	実用和声
講 師	唐津東流	声乐
”	江口元子	声乐

講師

芳野靖夫	声楽	倉光結子	チェンバロ
渡辺 明	声楽	久保田良作	バイオリン
花鳥雅子	声楽	橋 常定	チェロ
朝倉蒼生	歌唱ドイツ語	宇野浩二	フルート、ア ンサンブルⅣ
辻 宥子	声楽	大島久子	音楽教育演習
塚原瑛子	ピアノ	金子良子	音楽教育演習
大島君子	ピアノ	村井範子	ピアノ視奏法
手塚敏子	ピアノ	松前紀男	音楽学
青山三郎	ピアノ	須田真知子	音楽学
山岡優子	ピアノ	萩原英彦	和声法、対位 法、作曲
辛島曜子	ピアノ	岡島雅興	和声法 音楽形式
宇野紀子	ピアノ	志田笙子	和声法
井上英子	ピアノ	藤田厚生	和声法
樋口泰子	ピアノ	大町陽一郎	合唱、アンサ ンブルⅡ
宗 施月子	ピアノ	山田 一雄	指揮法
安藤友侯	ピアノ	三浦洋一	伴奏法
佐々木迪子	ピアノ	木下 保	声楽講義
加藤伸佳	ピアノ	北村宗次	讃美歌学
松尾民子	ピアノ	米山文明	音声生理学
大原裕子	ピアノ	中館栄子	リトミック
河野 元	ピアノ	飯島婦佐子	音楽児童心理 学
熊本美也子	ピアノ		
山下有子	ピアノ		
田村安佐子	ピアノ		
塚本ルリ子	ピアノ		
吉田能武子	ピアノ		
吉田雅子	ピアノ		
島田麗子	オルガン		

☆☆☆☆

◎第一回研修会開かれる

去る四月二日(水)、音楽科ホールに於て、ハンガリーのコムヤテイ先生をお迎えして開かれました。募集期間が短かったにもかかわらず、七〇数名の出席者を得て、大変有意義な研修会をもつことが出来ました。

ハンガリー音楽教育の最高責任者でいられるコムヤテイ先生の講演は、ハンガリー音楽教育の場で、充分生かされてきた先生の体験と、豊かなお話に聴く私達を惹きつけました。バルトークの「子供のためのピアノ曲」の実際のピアノ指導からは、多くのことを教えられ、又自分がいかに音楽性に乏しいかを反省させられたことでした。そこで出席なさらなかった方々に、先生の講演要旨を御紹介することにいたしました。

「ハンガリーは、小さい国ではありませんが、地理的にも、歴史的にも、音楽的な立場では非常に恵まれた国であると思います。

バルトークは、一九〇〇年から五〇年の間に、「子供のために」のピアノ曲を作曲しました。

偉大な作曲家が子供のために、民謡の編曲、作曲をしたと言う例は、世界でも少ないことでしょう。又音楽教育の面では、コダーイが蒐集した歴大な数にわたるハンガリー民謡をもとにして、非常に秀れた教育システムを作りあげ、音楽基礎教育に画期的なものをもたらしました。一九一〇年にバルトークが音楽教育の教材のために、既を用

意してあった作品を、毎日の私達の教材に使えるようにする迄に、四〇年位かかりました。これ等の曲を使いこなせるまでには、コダーイの音楽教育の方法を学び取らなければなりません。

コダーイの考えた音楽教育とは、ソルフェイージュンするだけと考えられるかもしれませんが、実は、子供達が民謡やわらべうたを楽しく歌ったり、踊ったり、聞いたり出来ることをいうのです。

今回の教材のバルトークⅠⅡⅢⅣは六五年前に出ました。非常にすぐれている作品で、六五年たった今でも又、百年後でもこの作品を知った人は、興味を持ち、好きになるでしょう。非常に才能のある作曲家バルトークは、大変秀れた編曲をしています。これは彼自身が、民族の間を歩いて集めた民謡から作曲したものです。彼の作品は、彼が作曲家、ピアノリストであったため、ピアノ曲としても非常に良い作品であると思います。現在、世界中でいろいろな作曲家が、民謡を使つて多くの作品を書いていますが、民謡のその簡明さ、美しさが、初等教育にうまいと楽しさをもたらし、ピアノ指導の面でも多くのよい成果があるものであることを、皆さんにもおわかりいただきたいと思ひます。第二次大戦後、ハンガリーでは、音楽教育の面でも組織立てて考えるようになりしました。子供達はソルフェージュとして、わらべうたを取り入れ、組織的に考えられた教育を受けることにより、音楽的にうたったたり、弾いたり出来るようになりました。私達教師も一九四〇年代に、やっとわらべうたや民謡を自分達でもう

たうようになり、勉強しなおして、音楽教育の面で、充分生かすことが出来るようになりました。ハンガリーでは、年間の教案が出来ていて、その中にバルトークの作品を必ず勉強しなければならぬよう義務づけられています」

このお話のあと、//子供のためのピアノ曲//ⅠⅡⅢⅣを教材にし、次のように分類され、テムポ・発想、タッチ等につき、丁寧な指導がありました。

- ① やさしく、ひきやすいわらべうたの曲
 - 一巻く 1・3・4・2・5・77
 - 二巻く 22・23 三巻 7・9・6
- ② テクニックをやしなうための曲
 - 一巻く 6・10・20
 - 二巻 29・38
 - 三巻 8・18・22
 - 四巻く 29
- ③ 高度な美しい曲、演奏するための曲
 - 一巻く 19・20・21・14
 - 二巻く 27・30・32・40
 - 三巻 21
 - 四巻 31

子供を教える時に、大切なことは、まづフレーズを考へること。(ハンガリーの民謡は四つのフレーズから出来ている)そして必ず、メロディをうたわせるということを強調されました。ピアノ演奏は同窓生の金子良子さん、大西優子さんにおねがいし、大変よい演奏をして下さいました。次回の研修会には、より多くの方々の出席をお待ちしております。

予 告

次回の研修会は、十月、総会と共に開きます。//バツハ演奏の権威、ピヒト先生を迎えて//
近日に研修会員の再募集の御通知を差さし上げるようになっております。御協力下さいます様おねがいたします。

昭和49年度会計報告

総 収 入	1373,234	総 支 出	585,230
終 身 会 費	843,000	同窓会総会費用	79,540
同窓会総会会費	80,200	研 修 会 費 用	112,500
研 修 会 入 会 金	150,000	オーデイション他活動資金	35,450
研 修 会 会 費	61,500	印 刷 代	215,680
白 菊 会 費	100,000	通 信 費	59,070
名 簿 代	88,000	音 楽 科 事 務 所	30,000
銀 行 利 息	33,914	幹 事 会 費 用	18,460
そ の 他	16,620	慶 弔 費	22,200
		そ の 他	12,330

前期繰越金 2,913,881
現在高 3,701,885 (昭和50年4月30日現在)

昭和50年度行事予定

6月	1日	(日)	創立記念日		
	2日	(月)	音楽科前期実技試験課題曲発表		
7月	14日	(月)	前期学科試験時間割発表	PM 2:00	
	13~19日	(日~土)	音楽科前期実技試験週間		
	21~23日	(月~水)	音楽科集中講義		
	24~26日	(木~土)	音楽科前期学科試験		
	26日	(日)	前期終了		
	27日~9月20日	(日~土)	夏季休暇		
	28日~8月2日	(月~土)	音楽科夏期講習会(予定)		
9月	12日	(金)	前期再試験者発表及び追再試験時間割発表	PM2:00	
	14~20日	(日~土)	前期追再試験週間		
	16~18日	(火~木)	音楽科集中講義		
	19~20日	(金~土)	音楽科研修旅行 1年・専攻科 於天城山荘(振替授業)		
	20日	(土)	前期終了		
	22日	(月)	後期授業開始		
	31日~11月4日	(金~火)	学生祭週間		
11月	10日	(月)	学内演奏会 於 県民小ホール	AM 10:00~4:00	
	14日	(金)	学内演奏会 放 県民小ホール		
	18日	(火)	〃	〃	
	25日	(火)	音楽科後期実技試験課題曲発表		
12月	13日	(土)	クリスマス礼拝		
	19日	(金)	音楽科音楽学・音楽教育論文提出メ切	PM 4:00	
12月21日~1月10日	(日~土)		音楽科冬季休暇(15日~20日は専門科目のみ開講)		
	25日~27日	(木~土)	音楽科冬期講習会(予定)		
1月	19日	(月)	入学試験受験受付開始		
	26日	(月)	後期学科試験時間割発表	PM 2:00	
	30日	(金)	音楽科論文・作曲・アンサンブル発表	PM 1:00	
	31日	(土)	後期授業終了		
			入学試験受験受付メ切		
2月	1~7日	(日~土)	後期学科試験週間		
	8~14日	(日~土)	入学試験週間		
	17日	(火)	音楽科合格者発表		
	18~28日	(水~土)	音楽科後期実技試験		
	20日	(金)	卒業級再試験受験者及び時間割発表	PM 2:00	
	26日	3月3日	(木~水)	卒業級追再試験	
3月	4日	(木)	音楽科音楽専攻入学内定者発表		
	10日	(水)	卒業判定教授会		
	11日	(木)	卒業生氏名発表	AM 10:00	
	12日	(金)	卒業礼拝	PM 2:00	
	15日	(月)	卒業式	AM 10:00	
	16日	(火)	音楽科卒業演奏会		
	19日	(金)	1年生後期再試験受験者発表及び時間割発表	PM 2:00	
	21~27日	(日~土)	1年追再試験週間		

役員

会 長	大島久子	(1)
当 番 幹 事	西山範子	(7)
伊子田しのぶ	伊子田しのぶ	(7)
齋藤悠子	齋藤悠子	(15)
熊取谷寿子	熊取谷寿子	(16)
比留間和子	比留間和子	(16)
中島恭子	中島恭子	(9)
木村晴子	木村晴子	(15)
大島君子	大島君子	(3)
理事評議員 同窓会役員 (白菊会)	田中順	(1)

各学年幹事名

一九七五年度

(1) 大島久子	(2) 山本和子	(3) 三宮康子	(4) 太田雅子	(5) 八木英子
----------	----------	----------	----------	----------

(6) 岩瀬洋子	(7) 西山範子	(8) 平木和子	(9) 林美穂子	(10) 永井京子	(11) 大森信子	(12) 岩崎雅子	(13) 伊藤佳子	(14) 川村香代子	(15) 西葉子	(16) 熊取谷寿子	(17) 熊本美也子
----------	----------	----------	----------	-----------	-----------	-----------	-----------	------------	----------	------------	------------

(18) 岩田澄子	(19) 齋藤邦子	(20) 生野晴子	(21) 小林美和	(22) 安部幸子	(23) 石川やす子	(24) 高木純子	(25) 福島薫	(26) 藍原寛子	森田えみ子
-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	------------	-----------	----------	-----------	-------

フェリス女学院短期大学内
Fグループ
編集責任者
西山 範子
伊子田 しのぶ
住所 〒231 横浜市中区山手町五二一